

2007秋  
4号

# ありて

わたしの未来はわたしが創る

こんにちは。  
わたしが  
“ありて”を  
ご案内します。



「ありて」は  
自分の力で問題を解決していく  
イギリスの童話  
「アリエーテ姫の冒険」の  
主人公の名前です。



## 特集 いまどきの子育て

### もくじ

わかいもん／獅子舞研究会

伊沢 清さん、井 貴範さん

センター活動登録団体紹介

ぼくの育児&育自日記

セピア色の写真から／二口 梅子さん

お知らせ／女性に対する暴力をなくす

運動期間について



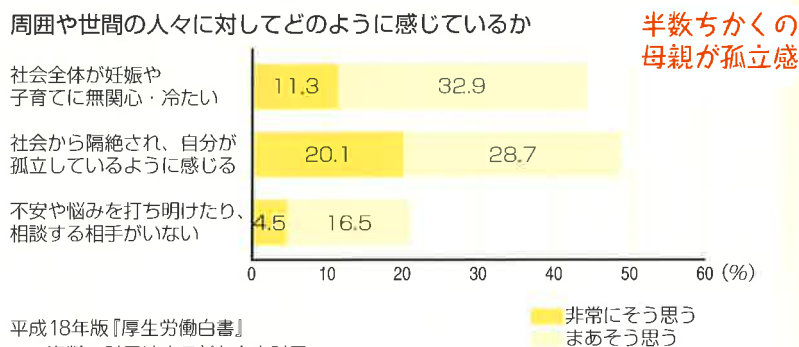
# どきの子育て

考えよう

次代を担う子どもたちのために



図表1 子育て中の母親の意識



図表2 父母の子育て役割分担

(単位%)

項目	国	役割分担 (%)			
		両方でする	主に父親	主に母親	その他
食事の世話	日本	7.6	2.5	85.9	4.0
	アメリカ	28.3	6.5	63.8	1.4
	スウェーデン	29.6	16.0	53.4	1.0
しつけ	日本	49.2	4.2	43.4	3.2
	アメリカ	54.5	11.8	28.9	4.8
	スウェーデン	72.9	7.6	18.4	1.1
生活費の負担	日本	17.8	74.1	5.6	2.5
	アメリカ	40.4	42.0	15.2	2.4
	スウェーデン	67.8	14.3	17.0	0.9

出所：国立女性教育会館「家庭教育に関する国際比較調査」(2005年調査)

少子高齢化をきっかけに、かつてないほど子育て支援が重要視されるようになり、行政だけでなく、企業や地域でも子育てを支援するための取り組みが増えてきています。

しかし、児童虐待などの悲しいニュースは後を絶たず、また少子化傾向は今後も続くといわれています。

子育てが抱える悩みは、それぞれ異なりますが、

- 母親の孤立
- 子育て世代の父親の長時間労働の傾向
- 地域コミュニケーションの減少
- 仕事と子育ての両立が困難な職場のあり方

などが、あげられます。

男女が子どもを産み育てやすく、子ども自身も生まれてきて良かったと思える豊かな社会となるにはどうしたらよいのでしょうか。

子育て世代の現状をいくつかピックアップしてみました。

## 母親の孤立感

【図表1】を見ると、三歳未満の子を持つ母親の半数近くが孤立感を持ち、二割が「不安や悩みを打ち明けたり、相談したりする相手がいない」と答えています。

財団法人こども未来財団の調査では、母親の孤立感は夫の平日の帰宅時間とも関係しており、夜十時以降は帰宅時間が遅くなるほど孤立感を感じる割合が高くなっています。

(平成十八年度「子育てに関する意識調査」より)

【図表2】から、日本ではアメリカやスウェーデンと比べて「男性は外で働き、女性は家事育児」という固定的役割分担の傾向が強いです。「母親なら立派に子育てが出来て当たり前」「子どものしつけや健康管理は母親の責任」ということも聞かれます。こうしたことが母親を追い込んでいないでしょうか。

また、時代とともに母親を取りまく環境は変化しています。国勢調査によると、富山県内の三世帯同居世帯は減少傾向にあり、平成二年には27.0%だったのが、平成十七年には16.2%となっています。地域のつながりも希薄化し、子育て家庭を支えてきた基盤が弱まっています。



図表3 理想とする働き方（複数回答）

	第1位	第2位	第3位
29歳未満	有給休暇取得容易 (41.1%)	残業少ない (36.3%)	転職可能 (32.2%)
30～39歳	有給休暇取得容易 (40.1%)	残業少ない (35.5%)	子育てと両立可能 (30.8%)
40～49歳	定年まで雇用確保 (39.8%)	退職金・年金充実 (39.7%)	有給休暇取得容易 (34.0%)
50～59歳	退職金・年金充実 (43.6%)	定年まで雇用確保 (41.3%)	有給休暇取得容易 (27.2%)
全体	退職金・年金充実 (34.8%)	有給休暇取得容易 (34.8%)	定年まで雇用確保 (34.7%)

平成18年版『厚生労働白書』

資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室「社会保障を支える世代に関する実態調査」（2004年）

# いま

## 仕事と家庭生活の両立

少子高齢化による労働力不足対策の一つとして、女性の活用が今後さらに期待されることに伴い、母親にとって最も身近な協力者であるはずの父親の家庭での役割も、ますます重要となっております。

父親の子育てへの意識は、実際どうでしょうか。

未就学児を持つ父親を対象に、子育ての優先度を質問した調査<sup>※1</sup>では、51.6%が「仕事と家事育児を同等に重視したい」と思っており、希望している一方、現実に行っているのは25.9%にとどまっています。子育て世代にあたる三十代男女の望む「理想とする働き方」**【図表3】**でも、「子育てと両立可能」が第三位となっており、理想と現実には差があるようです。

平成19年版男女共同参画白書では「子育て世代の男性社員を中心に、長時間労働が常態化しており、女性の継続就業や、再就業を困難にしている」と指摘しています。

このことから労働者の職業生活と家庭生活の両立（ワーク・ライフ・バランス）が図られることが必要なのではないでしょうか。



## 親育て・親育ち

今の子育て世代は、子育てを体験する機会が少なく、自分の子どもが生まれて初めて乳児を抱くという人も稀ではないようです。

（独）国立女性教育会館が行った家庭教育に関する国際比較調査の「親になること」についての経験・学習**【図表4】**では、日本は他の国に比べてベビーシッターなどの実体験が少なく、男性は過半数の人が子育てについて学んだ経験がないようです。

かつて、初めて子どもを持った新米の親には、年長の家族や親戚や近所の知り合いが援助の手をさしのべていました。しかし、核家族化や地域の結びつきが希薄になった今、親として育つ仕組みづくりを考えていく必要があるのではないのでしょうか。

図表4 親になることについての経験・学習（複数回答）

（単位％）

		育児の本を読んだ	テレビなどで学んだ	学校の授業で学んだ	地域の学級・講座に参加	ベビーシッター	特にない
日本	父親	11.6	5.5	1.8	4.3	-	52.5
	母親	43.8	15.7	10.3	15.8	2.4	22.6
アメリカ	父親	15.9	6.9	6.3	8.6	16.7	27.2
	母親	34.3	14.4	19.5	14.0	56.9	8.6
スウェーデン	父親	22.2	8.0	11.8	17.5	24.8	26.2
	母親	37.3	13.4	24.5	21.4	44.6	13.9

出所：国立女性教育会館「家庭教育に関する国際比較調査」（2005年調査）

※1 厚生労働省委託調査「子育て支援策等に関する調査報告書」（平成十五年）



昔が子育て環境に良いことばかりだったとも言えませんが、昔と今の子育て環境の変化を比較してみることは、新たな子育ての仕組みを考えるヒントになるかも知れません。その変化の一部をいくつか挙げてみました。

# ありいで編集員が考える 今昔 子育て環境 ～新たな「子育て」の仕組みを考えるために～

	昔(50～60年ほど前)	今
家族形態	三世同居などの割合が今よりも高く、近隣に親戚が住むことも多かったため、助け合うことができた。	核家族の割合は昔とあまり変わらないが、郷里を離れて都市に移り住むなどの理由で孤立しがちになっている。
人との関わり	家庭には兄弟姉妹・祖父母がおり、地域にも子どもが多数いた。	家庭には兄弟が少なく、地域には子どもの数が減り、身近な人とのふれあいが少なくなった。
しごと	地域内での労働(農業や商店)があり、地域の人や親の働く姿を見ることが出来た。	会社や工場へ働きに出る人が増え、地域の人や親の働く姿が見えにくい。
余暇	祭りなど、地域ごとの様々な行事があり、地域の大人と一緒に楽しんだ。	各家庭でレジャー施設へ出かけることが多く、地域の行事に参加することが少なくなった。
遊び	自然の中で、いろんな遊びを子ども達が自ら考え、ルールを作り、戸外で遊んだ。	テレビやテレビゲーム、漫画など人工的な遊びが多くなった。
父親	「父親は仕事、母親は家事・育児」という役割分担意識が強かった。	父親の育児休業取得や、入学式・授業参観など男性の子育て参加が広がってきた。

今は、情報が溢れればかりにあるものの、子育てについて学ぶ体験が無いまま、自分だけで子育てをしている母親が多くなりました。昔に比べて孤立感や不安感が増大する子育て環境が見えてきます。

子育てに困難を感じている多くの母親への支援が必要です。子育てには父親の協力や、社会の支援が不可欠です。母親自身も仕事や地域活動など、広く社会と関わる機会を持つことが大切です。

少子高齢社会では、社会のあらゆる分野への女性の参画が求められる一方で、男性の家庭参画の必要性も大きくなります。そのため家庭では、「女だからこうすべき」とか「男だからこうすべき」といったことにとらわれない視点で子どもを育てることが大切ではないでしょうか。

今、多くの子どもたちの生活は、物質面では量的に充足されていますが、人間関係の希薄化、遊び場の不足、生活能力の低下などが起こっています。

子育ては、もともと各家庭の個人的な営みですが、社会的な営みでもあります。変化してきた子どもと家庭や地域の課題を検討し、様々な年齢層の人がいろんな考えや知恵と力を出し合って新しい子育ての仕組みを考えたいものです。

また、子育て世代自身も受身にならず、主体的に考え、行動していくことも大切ではないでしょうか。

## インターネットで

### i-子育てネット

(全国子育て支援ネットワーク)  
全国の保育・子育て支援情報、子育てノウハウ情報や児童福祉の制度についての情報を提供している。

▶ <http://www.i-kosodate.net/index.html>

### 子育てネットやま

i-子育てネットの富山県版

▶ <http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/index.html>

(同携帯サイト)

▶ <http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/k/>

上記のほかにも、個人や企業が運営するホームページやブログなどが多数あります。

雑誌やテレビだけでなく、公共施設に置かれている冊子や情報紙、インターネットなど、いたるところに子育て支援情報があります。

上手に活用して、自分に合ったもの、必要なものを見つけてみよう。



ありて編集員が  
おじゃまします

# わかいもん

高岡で活躍する男女を紹介していくコーナーです。今回は、伏木一宮の獅子舞研究会会長の伊沢清さん(四十一歳、会社員)と、副会長で一宮青年団ホームページ管理者でもある井貴範さん(三十一歳、庭師)です。

獅子舞研究会は、獅子舞が大好きだった二人が平成十四年に、ひよんなきっかけから伏木一宮の町や獅子舞、気多神社のルーツなどを個人的に調べ始めたことから始まる。

町に昔から住む古老に聞き取りを行い、いろいろな図書館や展示館等に足を運び、文献等を検索するなどして情報を集めたそうだ。

それを基に、平成十六年に小冊子「二宮History」を発行。昨年には一宮青年団のホームページを創設し、以降会員

数は一宮を問わずに増え、現在二、三十代を中心に二十名の男女が在籍している。現在は主な活動として、県内の獅子舞を見学し、ホームページ内や会合で報告



(左から) 伊沢さん、井さん

しあい、いろいろな獅子舞のルーツを検討、分析している。

「獅子舞には、地元の人間にしか伝わっていない歴史やいわれがたくさんあるもの。そして獅子舞を好きな人は各自それぞれ見に行っている。それではなかなか発展しない。いずれは県内全域に会を広めて獅子舞を次の世代に着実に伝播していきたい」、「幼い頃は、行かなければならないものと思っ行っていた獅子だが、今は指導する立場になり思い入れの形も変わってきた。これからも獅子舞研究会を通して、富山県の獅子舞をより発展、継承していくことができるよう活動を続けていきたい」と話す。

## 一宮と気多神社

二人によると、一宮とは、昔の六十八カ国において中央のお達し等を最初にその神社に伝えることになっていた神社で、多くはその国において最も格式の高い神社といえるそうだ。なお、平安時代以前からの古社でない一宮とはなれず、その神社のある地区を一宮と呼ぶという。

越中国唯一の名神大社、気多神社の創建は西暦七五七年、越中より能登国が分立した後、越の大社と崇められていた能登・羽咋にある気多大社を国府に近い現在地に勧請したものといわれている。

一宮の獅子舞は氷見市川尻から高岡市太田を経て伝わっており、青年団は明治四十三年に結成。平成二十一年には、結成百周年を迎えるにあたって「100周年記念祭」を予定している。

また、一宮では通常の獅子舞とは別に、神輿の先導をして悪魔祓いをする「にらみ獅子」があり、獅子頭ににらまれると厄を落としてくれるといわれる。



にらみ獅子

## 女子児童の参加

平成九年からは初の女子児童が参加しており、現在では二十五名の女子が参加している。「私も笛で参加したい」と言ってきたのがきっかけだった。

「もともと古くは、獅子舞は長男しか参加できなかった。それが次第に長男以外も参加できるようになり、よそから引っ越してきた人も参加できるようになっていった。そして女性も参加できるようになったのは時代の流れ」という。また、女性天狗についても「これから、絶対増

えるだろう」と、二人は口を揃える。

「今はまだ、獅子舞を『男の世界』と認識している人が多いので、女性にはもっと積極的に参加してほしい」とも話す。

## できることをお互いに協力して

高校二年生と中学二年生の二人の子を持つ伊沢さんは「子どもが小さい頃はおしめを替えたり、風呂に入れたり、毎日ドライヤーをかけてあげることが日課だったが、今は大きくなってそういった日課だったコミュニケーションが無くなったことが少し寂しい」という。家事や育児については「こんな世の中だと男も女も関係ない。お互いができることをお互いが協力して分担することでうまく世の中が回っている」と話す。

一方、独身の井さんは「現在も洗濯、掃除、毎日の弁当づくり、ボタン付け、アイロン掛けなど、家事全般は自分でするので、結婚しても自分のできることは積極的にするつもり。どちらかが負担するのではなく、分担してあたたかい家庭を作りたい」と話す。

## 取材を終えて

獅子舞を通して「時代の流れ」を実感させられた。二人のように、昔から続くものを現代の感覚で新たに継承していく姿勢が今の世の中には必要なかもしれない。これからは卒にとられず活躍していただきたい。

一宮青年団(獅子舞研究会)ホームページ

<http://chinomiyajamesou.net/>



# 高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

## あなたのグループもセンターに登録しませんか?

下記の団体・グループに関するお問い合わせは、高岡市男女平等推進センターTEL (0766) 20-1810まで。  
センターのホームページ (<http://www2.city-takaoka.jp/gec>) でも、この他の登録団体・グループを紹介しています。

2007年  
8月末現在の登録  
52団体

### NEWS

登録団体が集まって結成された“Eネット”のホームページ (<http://te-net.org/>) が開設されました。

## てふてふの会

毎週日曜日に、交流スペースにて活動している、高齢者や障がい者のパソコンサークルです。パソコンの苦手な仲間同士が手を携え、マイペースで奮闘しています。高齢者も障がい者も、自己努力で社会参画を目指して頑張っています。



## 女性センターを考える会

サンフォルテ建設時に県民の声を届けようと集まった人々たちで作った会です。情報収集・情報交換をしながら、月1回、ニュースレターを発行しています。Eフェスタにもワークショップで参加しました。昨年の120号(10年)発行を機に、会の活動を終わりにすることになり、今年1年をかけて、今までの活動の振り返りをしています。当会から県下にいくつものグループが出来、活躍しています。

## 大工町 大寿会

大工町の老人会のネーミングです。この町は、ウイング・ウイング高岡の西500m位の位置にあります。瑞龍寺建立の折、大勢の大工さんが住まわれたことで町名として残りました。私達は、「日々是好日」を目標に融和を図り、校下や町内の行事に参加しながら、健康と美しく楽しく生きる心掛けをしています。皆の意見を聞きながらいろいろな行事への参画や、地域に貢献したいと思っています。

## 高岡を記録する会

当会は、東京都世田谷区の東宝の映画人たちが、失われていく地域の民族や文化財に着目し、それを記録に残そうと始めた活動が原型となっています。「身のまわりにある」、「身のまわりに起こる」普段の出来事を再認識し、記録するための技術を磨きながら、女性の生活史を含めた高岡を記録し、後世に残していくことを目標にしています。



「元気なお子さんですよ。」  
平成十三年、私はパパになりました。その時、心の中で誓ったことの一つに「ママと一緒に仕事と育児の両立を目指す」ということがありました。  
とはいえ、第一子を授かった時は、あたりまえですが初めての経験の連続でバタバタしてしまい、ママにも家族にも迷惑をかけたと思います。また、子どもが起きる時間に出勤し、寝る時間にも帰宅できない生活が続き、仕事とのバランスが取れずに月日が流れてしまったと今でも心を痛めることがあります。  
そんなこともあり、第二子を授かった時は、悔いのないようにと神様が与えてくださった機会だと思えました。また、丁度その頃、仕事においても生涯をかける仕事として介護事業を自ら起業することも一つの選択肢ではないかと考えていました。

そこで、育児を中心に自分自身の働き方を見直し、事業準備をしながら保育園の送迎や病気をした時の通院、休日の外出など、できることは何でもチャレンジしました。(結果論ですが、子どもが3歳まで育児休暇を取得したらどんな生活になるのかという擬似的体験をすることもできました。)  
世の中には「育児は女性・母親の役目」、「女性が仕事をするなら家庭のこともしっかり」というような固定観念があるのかもしれませんが、ですが私の場合は、そういうものはありませんでした。結婚前から、ひたむきに仕事に取り組みママの姿を見られましたし、お互いが仕事を持っているのであれば条件は一緒なので、母親ばかりでなく父親が育児をするのもいけば当たり前だと思うからです。  
また、「子はかすがい」という言葉がありますように、最初から夫婦で育児をすることにより、生まれも育ちも違う二人が対等なパートナーとしてお互いに個性や能力を十分に発揮し尊重することができたら、よりよい関係が築けるのではないかと感じています。  
「出産することと母乳を与えること以外はなんとか男性でもできる」という人もいますし、育児を通じて一人の男性として「これからの「男」女共同参画社会」を生きてみたいと思っています。



石田卓也さん

市内在住。デイサービス「惣四郎さのあらい」開設準備中。  
“育児と仕事を両立したいパパの集まり”代表世話人。

## ぼくの育児と育日記

“育児と仕事を両立したいパパの集まり”  
ホームページ  
<http://youritupapa.takaoka.hometown.jp/>



# セピア色の 写真から

「もったいないという

言葉を大事に・・・

ものだけじゃなくて時間も」

## 二〇 梅子さん

(一九二六年)



高岡万葉生活学校の代表を二十数年間務め、仲間たちと共に環境問題や食の安全など数多くの消費者問題に取り組んだ。朗らかで勉強好き、そして物怖じしない人柄で、富山県消費生活研究グループ連絡協議会会長や、当時、女性では珍しかった高岡市固定資産評価審議会委員、東京で開催されたフードフォーラム90ではパネリストとして討議に加わるなど県内外で活躍。富山県教育功労者や高岡市民功労者として表彰を受けている。

大正十五年、市内の農家に七人姉弟の長女として生まれた梅子さんは、学校では常にトップクラスの賢い少女だった。十二歳の時に日中戦争、十六歳の時には太平洋戦争が始まり、青春時代のほとんどを戦争下で過ごす。学校を卒業後は家の農業を手伝ったり、タイピストとして会社勤めをしたりした。終戦を迎えた時、梅子さんは二十歳になっていた。

### 「心臓病を抱える子どもたちと共に」

二十四歳で旧新湊市内に嫁いだ梅子さんは二人の男の子を授かる。昭和三十三年に生まれた二男は先天性心臓病だった。県内には手術ができる医師も施設も無く、「日一日と死へ近づいていく」小学生の

息子を連れ、上京して診察を受けた。その後、福井県内の病院で「心臓外科の父」といわれた東京の榊原任（しげる）博士が執刀した手術は無事、成功した。当時、手術費用に加え旅費や滞在費の負担は庶民にとっては大金で、県内には多くの心臓病児の家族が頭を悩ませていた。昭和四十一年、梅子さんは新聞投稿で「心臓病の子を持つお母さんたち、手をつなぎましょう」と呼びかける。これが大きな反響を呼び「富山県心臓病の子どもを守る会」が結成された。子どもの高額医療費を公費で賄う「育成医療費」を心臓病児のために予算拡大することを県に陳情し、昭和四十年度にたった三人分だった予算は年々増え、多くの心臓病児が手術を受けられるようになる。梅子さ

### 消費者運動へ

消費者問題に関心を持ち始めたのは、夫の勤務先での食品や洗剤の共同購入に参加したのがきっかけだった。以来、梅子さんは環境問題や食の安全について書いてある本を読みあさり、様々な講演会や講座に出掛けるようになる。お金もなかったが、夫はいつも「行ってこいよ」と背中を押してくれた。

昭和五十三年に高岡市内に引っ越してからは「高岡万葉生活学校」に参加する。同校の趣旨は「私たちが生活している地域社会をもっと住みよい町にするために、子孫に緑の地球を残すために、主婦が暮らしに根ざした問題を取り上げ研究討議し、関係する立場の人々と対話を通して解決への具体的行動に結び付けていこう」というものだった。主婦を中心に昭和四十八年に開校し、毎年テーマを決め、生徒を募集し、月一回程度学習会が開かれた。当時、リンゴやバナナにまでトレーが使われ商品価格に上乗せされていたことなどから、業者に要望書を出して野菜や果物のトレー使用の自粛を呼びかけたが、「時代はすべてが男性指向であり、主婦のささやかな運動は遅々として進まず、努力のわりには成果が伴わない日々だった」という。

梅子さんは、その人柄を見込まれ、入校してすぐに代表となる。期待に応えるように活動方法を改善。会員がスーパーの現地実態調査を行い、その結果を基に業者との対話集会を開き、改善や検討で

きることに、または市民が守るべきルールを取り決めるようにした。昭和五十五年には廃止を要望した十九品目のトレー使用のうち、多いところで全廃、スーパーマーケット協議会九品目廃止など大きな成果をあげ、その後も紆余曲折を経ながら品目数を増やしていった。

このほかにも、仲間と一緒に海岸のゴミや食品添加物の問題、牛乳パックのリサイクル運動などに取り組んだ。時には業者から「一部の者のみが騒ぐ」と言われることもあったが、その活動の姿勢は「業者対消費者」ではなく、お互いに話し合って歩み寄ることを第一とした。責任を業者だけに押しつけず、消費者の責務も追求すること、そして何より会員自身が楽しみながら活動することをモットーとした。

昭和六十三年には市内六つの消費者グループが集まって「高岡市消費者グループ連絡会」を結成。ここでも梅子さんは代表を務める。廃傘を利用したマイバツク運動などに先進的に取り組んだことなどが評価され、富山県功労表彰の団体部門を受賞した。

「私たちは今、子孫のために何をなすべきか。地球規模で考え、足元から行動を起こしましょう」と訴え続け、県内各地を講師として飛び回った梅子さんは三年前、病気のために高岡万葉生活学校を退いた。その後、同校も活動に終止符を打った。現在、夫と共に「トムとジェリー」みたくに仲良くけんかしながら暮らしている」と笑って話してくれた。

梅子さんたちが私たちの生活に果たしてきた役割は大きい。私たちは未来にどんな生活環境を残せるのだろうか。

参考資料 「あゆみ」富山県心臓病の子供を守る会

結成三十周年記念誌

# お知らせ

高岡市男女平等推進センター

11月12日(月)～25日(日)は  
女性に対する暴力をなくす運動期間です。

パープルリボン運動にご参加ください。

夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女平等・共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重要な課題です。

高岡市男女平等推進センターでは期間中にパープルリボン運動を行います。



※1994年にアメリカの小さな町から、社会や地域・学校・家庭での暴力をなくすための運動『パープルリボン・プロジェクト』が始まりました。今では世界40カ国以上の人々が参加するキャンペーンとなっています。暴力追放のシンボルである紫色のリボンを身に付けたり、飾ったりすることが「暴力のない世界にしたい」という意思表示になります。

## 参加方法

期間中、高岡市役所1階ロビーや高岡市男女平等推進センターのサロン(ウイング・ウイング高岡6階)に展示してある大きなTシャツに「暴力根絶」の願いを込めて紫色のリボンを付けるだけです。

(リボンは展示会場にて準備しております。)



## 編集後記

### ㊦ 涼 美智代

暑い暑い夏を過ごし、もう日本には秋が来ないのではと心配していましたが、秋らしくなりホッとしています。でも…秋には美味しいものがいっぱい、体重が心配な秋です。

### ㊦ 酒井 克岳

今回、消費者運動に長く関わって来られた方にお話を伺うことができましたが、戦中戦後とご苦労されながらもご自身が問題と思ったことに快活に取り組んでこられたことに感銘を受けました。そのチャレンジ精神といい行動力といい、見習うことばかりです。

### ㊦ 秦 美代子

特集は、早く仕上げる予定で取り組みましたが、資料の量に比例して原稿も長くなり、まとめるのに四苦八苦……。私の暑い暑い夏は「ありて」との戦いで通り過ぎ、今は爽やかな秋を満喫しております。

### ㊦ 若杉 幸子

私達の担当するありても残すところあと1回になりました。「幸せは自分の心が決める」をモットーに、自分らしく楽しめるよう努力したい所存でございます。

## 発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)  
電話／0766-20-1810 FAX／0766-20-1815  
E-mail／gec@office.city.takaoka.toyama.jp  
ホームページ／<http://www2.city-takaoka.jp/gec/>

- 「ありて」は上記のHPでもご覧いただけます。
- この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

平成20年1月11日から  
**配偶者暴力防止法**  
(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)  
**が変わります。**

### 改正のポイント (保護命令制度の拡充)

- ①生命・身体に対する脅迫を受けた被害者も保護命令の申し立てができます。
- ②被害者に対する電話・電子メール等も(接近禁止命令と併せて)禁止されます。
- ③被害者の親族等も接近禁止命令の対象となります。

詳しくは…  
内閣府男女共同参画局ホームページ内  
「配偶者からの暴力被害者支援情報」サイトで  
●<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.html>



高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は男女平等・共同参画の推進を目的に、公募の市民編集員により作成しています。

表紙イラスト:和田 玲子さん(高岡市在住)  
ありてキャラクターデザイン:山崎 可菜さん(高岡市出身)